



1

12 秋季の火災予防運動。ポンプ車で町内を回り火災への注意を呼びかけ、防火への啓発を行って住民の命を守ることに繋げる

2



特集

このまちを守るために

災害は日常を変える恐ろしいものです。そしてそれは突然やってきます。今回は、被災地支援の状況や、このまちを守る人たちを取り上げ、私たち皆で災害に備えることを考える材料の一つになればと思います。

3 令和元年台風19号の被災地である長野県長野市へ、中核市災害相互応援協定に基づいた支援のため、合同派遣チームとして田原本町、奈良市、香芝市、五條市から10名の職員が派遣される

3



4

4 長野市の様子（令和元年10月時点）。地面には泥水が残り、土砂で汚れた家具が山積みのある場所もあり、被害の爪痕が残る



5



6

56 長野市の避難所（令和元年10月時点）。避難所に必要な情報が掲示され、生活スペースには段ボールベッドなどが並び

台風19号による被災地へ、支援のため町職員を派遣しました



▲長野県長野市の避難所の一つ。職員が派遣された時点では46人の避難者がこの場所で生活を送っていました



▲被災した長野市の様子（令和元年10月時点）。大量の瓦礫やごみが被害の大きさを物語っています



▲避難所では、飲料などさまざまな物資が届き、仕分けられています。何かあったときに対応できるよう連絡設備を整え、衛生面も整える必要があるなど考慮すべき点は多く、皆で力を合わせて運営していくことが重要になります

被災地での活動を通して

令和元年10月、関東甲信越地方や東北地方に記録的な豪雨をもたらした、甚大な被害を与えた台風19号。その被災地の一つである長野県長野市へ、中核市災害相互応援協定に基づき町職員を派遣しました。

派遣された職員たちは、避難所支援職員として、支援物資の手配や避難者・来訪者の出入り確認、施設の清掃、感染症対策など多岐にわたる業務を行いました。

その中で、災害の爪痕を目の当たりにし「田原本町で、もし災害が発生したら」という視点から、さまざまな課題または教訓を得ることができました。

帰還した町職員の声から 〜皆で災害へ備えていく〜

帰還した町職員からは、被災直後の避難所ではブルーシートが敷かれたのみの環境であり、各種物資が届くにも5日は要するという状況であったこと、物資が配布された後も、避難者からのさまざまな要求に応えることは困難であったこと、といった所見がありました。

所見から伝わるのは、災害に対し「備え」がいかに重要であるかということ。災害は日常を一瞬で変えてしまいます。その中で自分たちの生活を守っていくために、今一度各ご家庭、そして地域で備蓄品の準備や避難所の場所、その時にとる避難行動について確認しておきましょう。

田原本町総合防災マップ を活用しましょう

- ハザードマップ
 - 災害への備え
 - 避難時の心得
 - 避難所に関する情報
- など、防災、避難などに役立つさまざまな情報が掲載されています。ぜひご利用ください。



▲総合防災マップは町ホームページから入手できます

関西初・トイレトレーラー導入に向けた ふるさと納税型クラウドファンディングに挑戦中

団 防災課安全防災係 ☎ 34-2059

期間 **2月29日**(土)まで

目標金額 **500万円**



◀詳細は「ふるさとチョイス」のホームページをご覧ください



町災害への備えとして、関西で初めてトイレトレーラーを導入し、導入自治体で支援し合う「災害派遣トイレネットワークプロジェクト」に参加します。必要資金の支援を募るため、ふるさと納税型クラウドファンディングに挑戦中です。実現に向け、ご協力をどうかよろしくお願い致します。
※1万円以上ご寄付いただいた人には、お礼としてトイレトレーラーへご芳名を掲載させていただきます。



◀▲トイレトレーラー（参考・静岡県富士市）。数カ月の長期間運用が可能で、安全・衛生面も高い緊急用トイレとして機能します

田原本町消防団について

田原本町消防団は、本団と、6分団からなり、団長以下93人の団員と、消防ポンプ車6台で構成されています。

団員の皆さんは、定期的に訓練や見回りなどを行っており、火災などが発生した際は、消防署と連携して消火・救助活動などを行います。



▲田原本町消防団の消防ポンプ器具庫。6分団それぞれに設置されており、火災などの際は、ここからポンプ車が出動します



▲消防庁より無償貸付された、救助資機材搭載型消防ポンプ自動車。AEDなど救助・救命機材を搭載し、さまざまな場面で活躍します

このまちに住む人たちを守り続ける

田原本町消防団



消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や災害時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を生かした消火・救助活動などを行う、非常勤特別職の地方公務員です。別の仕事に従事しながらもこのまちの安全のため活動している田原本町消防団を紹介します。

－「このまちを守りたい」という思い。それが一番の原動力－

平成29年に、日本消防協会会長表彰優良消防団^{かんろうじゅ}竿頭^{かんとう}を受賞しました。厳正な規律を保持し、日頃から消防の使命を全うすることに努める団に与えられるもので、団員一人ひとり、このまちが好きで、守ろうとする強い思いを持っているからこそ成しえることができました。

そして今年の奈良県消防操法大会では、田原本町消防団第5分団が出

町への強い思いと、確かな技術

「このまちを自分たちが守っていく」という思いが一段と強まります。

町消防団は、明治38年に結成された消防組が始まりで、その後町村合併や境界変更、消防の広域化など組織の合併、再編が進み、平成25年に現体制となりました。今年、伝統ある機械支部の出初式をこのまちで迎えられたことは嬉しく、誇らしいです。「このまちを自分たちが守っていく」という思いが一段と強まります。

長き伝統、誇りを持つ消防団



町消防団長

今西和夫さん

場する予定で、頑張ってもらいたいです。町消防団は過去にポンプ車の部で1位をとったことがあり、意識の高さだけでなく、確かな技術も併せ持っています。ただ、団員の生活もあるので無理はさせたくないです。

地域密着の団だからこそ

消防団の活動は、消防署の補助として、消火活動、人命、財産を守ること、けが人の運搬など多岐に渡ります。それらの役割を果たすためには、どこに、どんな人がいて、どの道を行けばいいのかがすぐにわかる、地元に着した団体が必要であり、その一つとして消防団の重要性は今後も変わらないと思っています。

消防団、そして防災のこれから

これからの懸念としては、やはり高齢化による災害対応への不安です。団としても、今後のため新しい世代への呼びかけや、町と連携して防災の啓発などを行っています。ただ、それだけでは足りないと考えています。

災害は起こってからの対処は困難で、事前の対策が不可欠です。自治会など、地域の皆さんの中でも防災対策を話し合ってもらえればと思います。そして、その方法の一つとして「田原本町消防団へ入団すること」も考えてもらえると嬉しいですね。

令和2年奈良県消防協会磯城支部

消防出初式

1月12日、消防機能の発揮に万全を期し、併せて一般住民に消防思想の普及を図ることを目的に、青垣生涯学習センターで行われました。

式典には磯城郡3町の消防団、磯城婦人防災クラブなど関係者約450人が出席。防災活動に功労のあった団員に、町長、警察署長、消防団長などから表彰状・感謝状が贈られました。屋外式典では分列行進や車両パレードが行われ、消防車から一斉放水する放水演習が披露されました。

団員たちは、日々の訓練に精進し、火災や水害などから町民の生命と財産を守る決意を新たにしました。



123 屋外式典では磯城郡3町の消防団が、迫力ある分列行進、車両パレードを行いました

4 屋内式典。受賞団員による謝辞が述べられました
5 放水演習では、大空へ向かって勢よく放水が行われ、来場者の注目を集めていました

出初式受賞者 (敬称略)

※町消防団の受賞者のみ掲載。

- 知事表彰
増田克巳 (第6分団)
- 協会長表彰
森島孝之 (第5分団)
- 永年勤続表彰
森田孝浩 (第1分団)
寺田典文 (第5分団)
谷口正志 (第7分団)

- 支部長表彰
山田普通 (第2分団)
奥西利行 (第6分団)
竹川雅浩 (第6分団)
- 団長表彰
山田善紀 (第1分団)
奥山直樹 (第1分団)
- 警察署長感謝状
牧野功 (第1分団)



永年勤続表彰を受賞し、町消防団員が表彰状を受け取る

消防団について もっと詳しく知りたいなら

消防庁・消防団オフィシャルウェブサイトには、消防団の活動や団員の思いなど、さまざまな情報が掲載されています。消防団をもっと知りたい、将来団員になることを考えている人は、ぜひご覧ください。



消防庁・消防団
オフィシャル
ウェブサイト

※田原本町消防団については、条例で分団数、団員数などが定められています。状況により、必ずしも入団できるとは限りませんので、ご了承ください。

田原本町消防団 年末特別警備



令和元年12月28日から30日にかけて、町消防団による年末特別警備が行われました。これは火気の使用が多くなる年末において、住民への注意及び警戒の喚起、火災などの防止を目的としています。地元を守る頼もしい音を鳴らしながら、夜中にポンプ車が町内を巡回しました。



▲カーン、カーンと音を鳴らして、町内をポンプ車が巡回